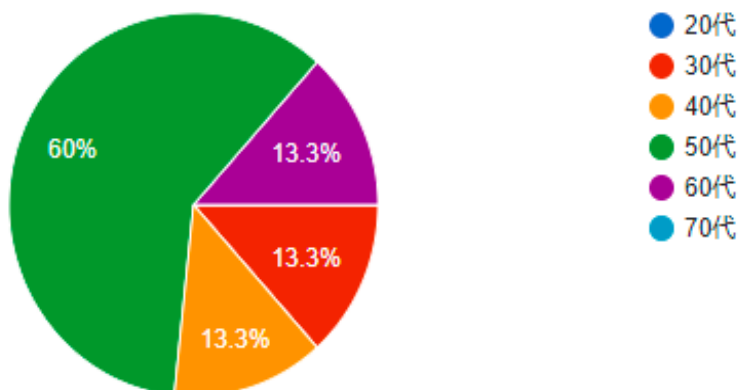


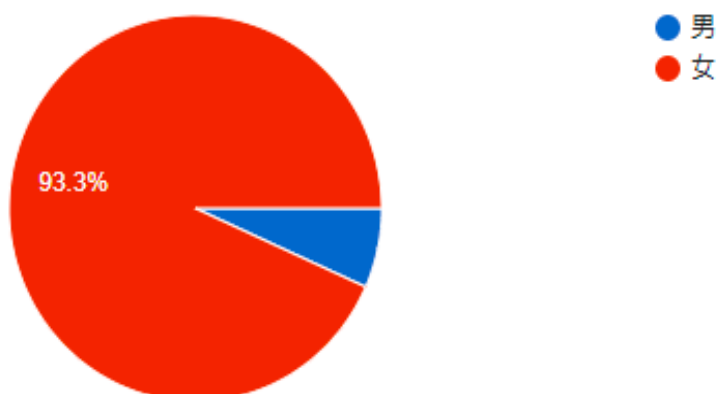
令和3年度 人生アルバム専門職向けアンケート(地域包括)集計結果

集計 令和3年10月29日

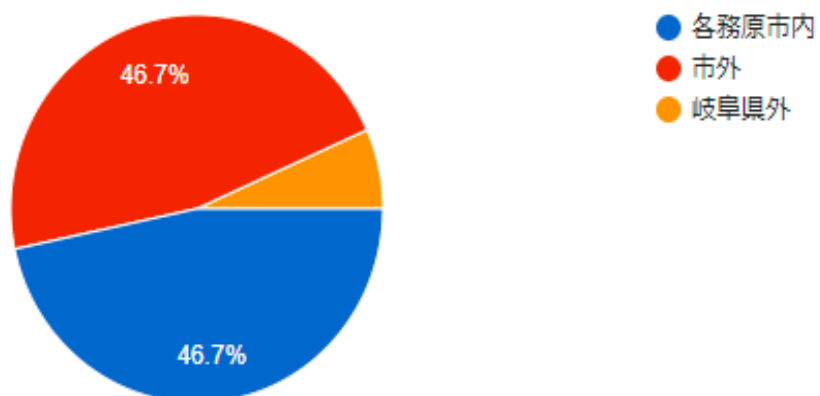
1:回答者年齢。回答数: 15 件の回答。



2:性別。回答数: 15 件の回答。

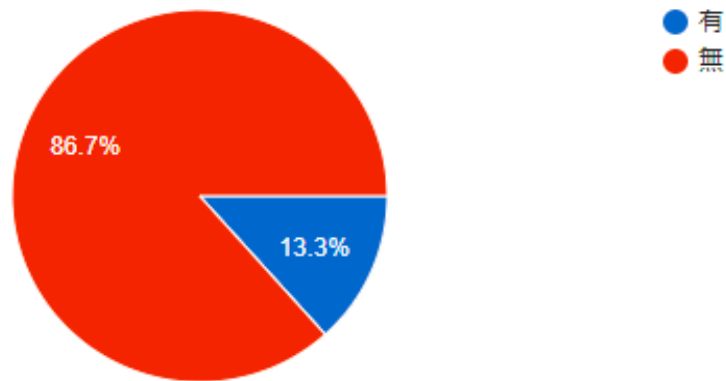


3: 回答された方のお住まい。回答数: 15 件の回答。



4: 人生アルバムの冊子の内容として「変更」や「追加」したいところがありますか？

回答数: 15 件の回答。

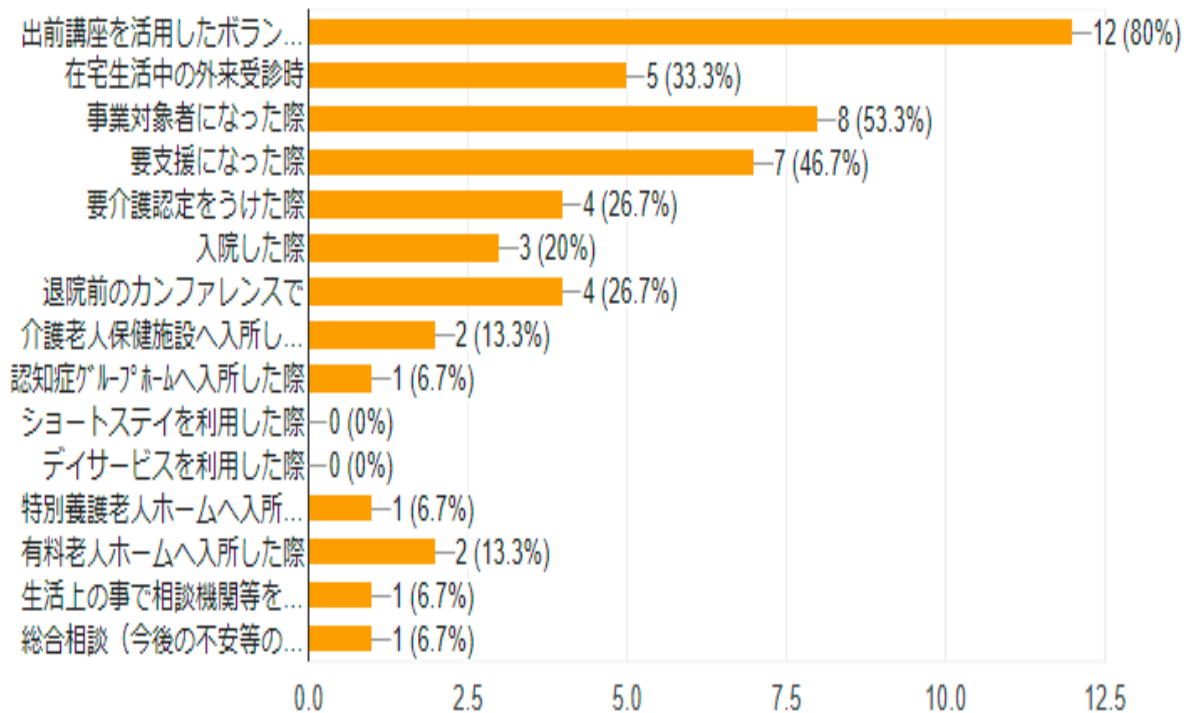


5: 上記質問にて「有」と回答された方は、ご意見をご記入願います。

- 本人の友人や知人等、本人の人生に深くかかわってきている人やモノが記入できる欄があると本人の地域や社会との関係性がより分かりやすいと思います。自分の人生の振り返りや現在の状況の再確認にもなると思います。
- 大事にしてきた物事・信念、これから先に大事にしていきたいこと等があると「これからの事を考える」指標になるのではないかと思います。

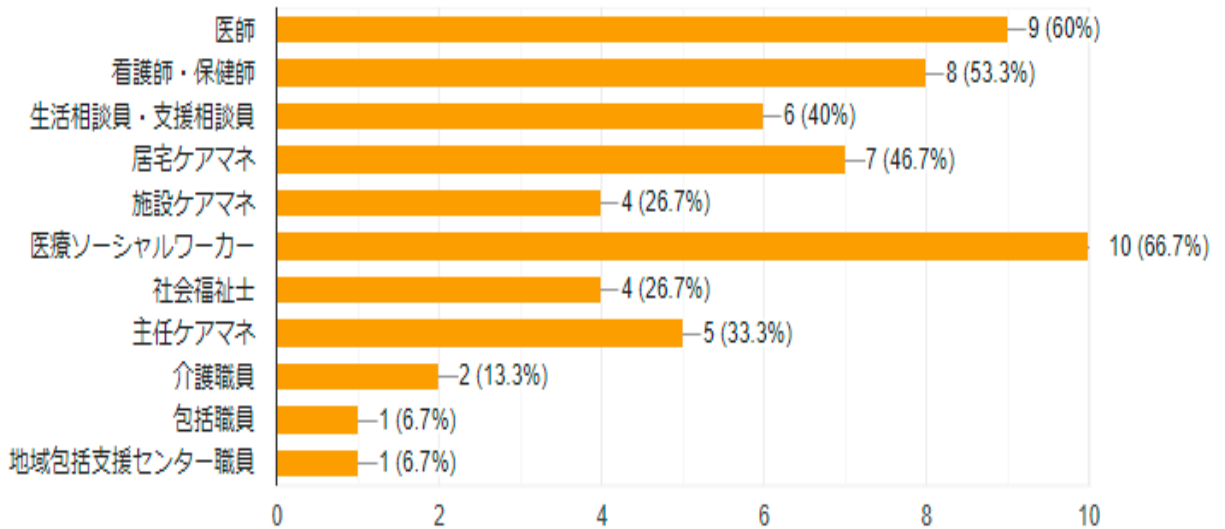
6: 冊子を導入できる場面はいつだと思いますか？(複数回答可 5つまで)。

回答数: 15 件の回答。



7: 冊子を導入する人はだれが望ましいでしょうか？(複数回答可 5つまで)。

回答数: 15 件の回答。



8: 冊子は具体的にどのような方法で(場所・声掛け等)勧めることが適切でしょうか？

- 地域の集いの場 ●自宅や住み慣れた環境 ●声かけ方法を考えていく必要がある。
- 冊子を見ながら説明を行う。説明は、長い時間ではなく親しみやすいと思える声かけで行う。
本人との面談時の場面にて内容を説明しながら「むつかしく考えなくていいので、無理なく書けるところから自分を振り替わりながら記入してみてください」
- 介護保険申請の相談時に他のパンフレットと共にお渡しし、「特別かしこまった物”ではなく”皆さんにお渡ししている物”という認識を持って受け取って頂くと”終活感”が軽減するのではないかと考えます。そのうえで内容を供覧した上で「お時間のある時に書いてみてください」とお渡しすると、冊子の理解及び認知の促進を図ることに繋がりそうです。ご夫婦ならお二人一緒にお渡しして、二人で思い出を振り返りながら記入して頂いてもいいかもしれません。
- これまでの人生を振り返るため、静かな場所でゆっくり一緒に関わることができると思う。
- 生活上の相談等で対応した際に案内する。人生アルバムの使い方は案内されていますが、フォルダーに利用の仕方などの案内文章が入ると良いと思います。
- 人生アルバムの目的や要点、活用法などを簡単にまとめたチラシを説明の際に配布できると良いと思います。
- 時間のある方に、今後の事が漠然とした不安がある方にボランティア等で勧める。
- 最終的な目的が人生の最後をどうしたいか、という事なので必要になったタイミング(病気の発症、入院、末期告知など)で様子を見て主治医や担当看護師より声掛けしていただくのが良いかと思います。全ての方が前向きに考えられるわけではないので、臨機応変な対応は必要だと思います。勧めるのは医療系で行った方が良いと思います。出前講座などでは紹介のみ。
- ボランティアハウスでは説明・案内はさせていただこうと思います。勧めやすいのは医療関係が適していると思います。有料老人ホームでこれからの人生設計など話はしやすいと思います。